

海外派遣留学プログラム報告書

2019.01.05-2019.01.31



新年が明けて一週間が経った頃、学校が始まる前に友達とイタリアのヴェネツィアに行ってきました。アドリア海の女王と呼ばれるほど世界中から愛される水の都、ヴェネツィアとっても綺麗な街でした。ヴェネツィアは車の乗り入れが禁止されていて、人々は主に水上バスを使っていますが、この水上バスは10分に1本くらいの間隔でヴェネツィア島全体をぐるぐる走っているので、想像していたよりもずっと便利でした。その水上バスから見える街並みは本当にロマンティックで、特に夕方には建物が落ちていく夕陽に照らされて、海は貝殻の内側の虹色光沢のように輝きます。この景色を一生心に置いておきたいと思いました。



イタリアといえばパスタ！スウェーデンでは魚介類を食べることは難しいので、海老とムール貝のパスタを選びました。確実に今まで食べたパスタの中でダントツに美味しかったです。

ヴェネツィアから帰ったら家族から年賀状が届いていました。みんなの筆跡が懐かしくて嬉しくてポストカードと一緒に壁に貼りました。大晦日には姉とビデオ通話をして紅白を映してもらって家族と一緒に観ました。おかげでその後めっちゃくちゃ日本に帰りたい気持ちになりましたがとても楽しい時間を過ごせたので感謝しています。

12月後半から1月中旬の間にオータムセメスターが終わりました。交換留学生の友達の中には何人かそれぞれの国に帰国する人がいたので別れの1ヶ月でした。留学期間に出会った人たちは本当にもう一生会えない人がほとんどで、昨日まで楽しく一緒に学生生活を過ごした人がだんだん思い出になっていくのは悲しいなと写真を振り返りながら思いました。もし再会できたとしても、全員がそこにいてみんなが学生で同じ立場でっていうあの状況にはもう戻れないと思うと本当に恋しく思います。

一期一会という言葉には「この一瞬を大切に思って今できる最高のおもてなしを」という意味があります。最近ではFacebookやInstagramで簡単に今彼らが何をしているのかを知ることができ、どんな気持ちなのかを知ることができます。言葉を変えて言うと、彼らが気軽にアップロードした彼ら目線の動画を見ていると同じ体験をしていると錯覚するし、彼らの元気にしている姿をSNSで見れば会った気になります。私たちの世代はそんな進化した“好都合”のアイテムを握りしめて毎日生きています。でも小さい画面の中の繋がりを大切にすればかりではなく、それを一旦ポケットにしまって周りを見てみてください。同じ空間で一緒に過ごしている人こそ、今私たちが最も大切にしなければいけない人なんだと思います。

よく考えればそんなことは当たり前なのですが、こういうことについてスウェーデンに来てから本当によく学んだし、この1ヶ月間でより深く考える機会が多かったように思います。

しかし、別れがあれば必ず次に新しい出会いが待っています。まだまだ春は来ませんが、大学ではスプリングセメスターの始まりです。どうしていくつになっても新しい友達ができると嬉しいのかと、帰り道で考えていました。

新学期の始まりには歓迎のイベントが多く開催されるますし、新しいコースでの出会いもあります。3つのコースが始まって、まだオリエンテーションしかやって



いませんが、あと残り半分になったスウェーデン生活でまだまだたくさん新しいこと始めていこうと思っています。